

恵みと真理のニュース



2013年8月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 神様は心の傷をきれいに治してくださり、 礼拝し捧げる幸せを味わうように導いてくださいました。

教区長から証を進められた時、最初は驚いてだめらいました。治癒の奇跡も無く特別に書くことや体験が無かったと思ったからです。しかし、私の今までのことを振り返ってみると“今日のわたしがいるのは”神様の奇跡であり神様の特別な恵みなので従順しました。私は1972年カンウォンドのチュンチョンの9人の兄弟の末子で生まれました。父が早く亡くなって母一人で他人の家の農業をしながら私たちを育てました。双子だったので寂しさは無かったのですが家が貧しかったから私はいつもいじけていて比較意識、劣等感が心の深いところにありました。中3年のとき母が二人も学校に通わせる登録金が無く心配していたので私は母の悩みになりたくなかったので進学を辞めその冬に家の近くにある 紡織工場で就職しました。勉強が下手ではなかったのですが家庭の経済状況でしようがなく工場に通ったから友達を会うことも憚ってました。2年後ソウルのクロにある紡織工場で職場を移しました。若かったからソウルの生活も怖くて外に出ると強く見せることが人々から無視されないことだと思って不良な男のように肩を曲げそとまた歩いて悪口もするようになりました。また、不平等な社会を批判しながらデモにも参加しました。2000年10月に結婚して 京畿道のクンポで新婚生活をしました。結婚

生活ははじめからあまりよくなかったです。姑と一緒に生活しましたが旦那が退勤して帰ってくると家がうるさくなりけんかをしました。妊娠中の旦那の止まらない悪口で耐えられませんでした。結婚準備の過程から旦那に失望しましたが、その年の冬に二番目のお兄さんが急に交通事故で亡くなってその葬式を行うときに旦那にもっと大きい失望して傷つけられました。全ての信頼がなくなって結婚生活は格子なき牢獄ようで私は悲しみに夜も眠れなかった日が多かったです。1年後に近くの村に引越して小学校の頃短い間教会に通いながら体験したイエス様の愛と神霊な平安が思い出しました。久しぶりに教会を探しました。人生の深い夜、切ない心で神様を探しながら“神様私が生きていることでもない死んでいるようになりました。私を助けてください。今の生活が苦痛で人々から傷つけられることが私には耐えられないので私に力を与えてください。切に祈りました。旦那の反対でも“私が生きる道はただ神様だけ、また教会しかない”と思い毎日教会に行きました。放蕩息子のように切ない心になって真に私の罪を悔い改めました。イエス様を受け入れ、礼拝と聖書勉強に頑張り掃除もして教会で奉仕もしながら生活しました。説教を聴き読みながら神様が創造主であること、イエスキリストの仲で救いを与える神様、今日も生きていらっしゃる神様に對して真な信仰を持つようになり神様の愛を深く悟り

ました。教会にいる時間は私に神様の慰めと愛を感じる休みの時間であり、世を生きる力を得る時間です。私が特別に奇跡を体験し神秘的な幻を見ることではないが恵みを受し頑張って礼拝を捧げます。礼拝を捧げ説教を聴くうちに私の悪い自我が壊れ肯定的に変化され信仰が強くなり神様に感謝の祈りをしました。“神様、私が奇跡を体験しました。御言葉の全てが信じるようになり私の心が平安になって驚きました。これが奇跡です。イエス様を受け入れ体験した事また違う奇跡は、私の口から悪い言葉がなくなった事と今まで乾いていた感情が豊かになり感想的なり小さいことでも悲しんだり喜び常に感謝するようになったのです。若い歳に厳しい世の中で競争しながら生きて人生は苦しく悲しみと不幸の連続だと思って限りなく心が硬くなっていました。そうしながらも人々に強く見せるため嘘と強がり生きて来ました。しかし、今は神様と人々に感謝をする事も出来て小さいことでも幸せも感じるようになり変わった私に驚いてその変化をくださった神様にも感謝しています。イエス様が私のため十字架を背負ったその苦難を考えるとどんな苦しい生活も忘れることが出来、イエス様を信じ愛するから受ける苦難と迫害はなにもないです。神様はもう私に完全な勝利を与えてくださったことを確信しているからです。次号に続く



【信仰コラム】 聖徒(せいと)らの生活(せいかつ)方式(ほうしき)

“…お前(まえ)たちはまず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう…”(マタイ6:25-34)

聖徒という特別(とくべつ)な性格(せいかく)を持つ(も)った人(ひと)たちです。出身(しゅっしん)と所属(しよぞく)において特別(とくべつ)です。“お前(まえ)たちは神(かみ)様(さま)からからキリストイエスの中(なか)にあり、イエスはハの神様から出(で)て私(わたし)どもに知恵(ちえ)と正義(せいぎ)感(かん)と神聖(しんせい)と拘束(こうそく)することになったから”(古典(こてん)1:30)しました。'聖徒'という呼称(こしょう)は、神(かみ)様(さま)の愛(あい)を着(き)てキリストの中(なか)で聖(せい)なるて負(ま)けた人(ひと)たちにだけ適用(てきよう)される名前(なまえ)です。聖徒(せいと)たちは、このように区別(くべつ)された人(ひと)になったことで、当然(とうぜん)区別(くべつ)された生(い)き方(かた)を持つ(も)つようになります。本文(ほんぶん)を中心(ちゅうしん)にお城(しろ)もらしい生活(せいかつ)方式(ほうしき)が何(なに)かどうかをチェックします。

第(だい)一(いち)に、すべての事物(じぶつ)に軽重(けいちょう)を判断(はんだん)して定(さだ)めとしました物事(ものごと)を対照(たいしょう)して比較(ひかく)してどちらがより貴重(きちょう)で少(すく)なく貴重(きちょう)なものかを判断(はんだん)する必要(ひつよう)があります。それで、あまり重(おも)いことに縛(しば)られてもっと重大(じゅうだい)なことを喪失(そうしつ)したり毀損(きそん)しないようにする必要(ひつよう)があります。肉体(にくたい)の生命(せいめい)も魂(たましい)よりもっと重大(じゅうだい)ではありません。人(ひと)が生(い)きていくには飲食(いんしょく)も服(ふく)も重(おも)いです。しかし、食(た)べ物(もの)と服(ふく)のために、イエス様(さま)を信(しん)じる信仰(しんこう)を持つ(も)っていません。信(しん)頼(らい)を喪失(そうしつ)するようになったら悲劇(ひげき)中(ちゅう)に悲劇(ひげき)です。よく食(た)べてよく着(き)るために、努力(どりょく)するのは申(もう)し分(ぶん)ありません。しかしそういったことが、永生(えいせい)よりは大事(だいじ)

だ)じゃないです。、イエス・キリストを信(しん)じる信念(しんねん)よりは大事(だいじ)じゃないです。

第(だい)二(に)に、勤勉(きんべん)におこなって最善(さいぜん)を尽(つ)くしてほしいとしました。聖書(せいしょ)には、不精(ぶしょう)な人(ひと)を向(む)けて忠告(ちゅうこく)した教訓(きょうくん)がたくさんあります。“なまけ者(なまけもの)、ありのところに歩き、そのすることを見て、知恵(ちえ)を得(え)よ。ありは、かしらなく、つかさなく、王(わ)もないが、夏のうちに食物(じじ)をそなえ、刈入れの時に、かてを集める。なまけ者(なまけもの)、いつまで寝(ね)ているのか、いつ目をさまして起きるのか。しばらく眠(ね)り、しばらくまどろみ、手をこまぬいて、またしばらく休(やす)む。それゆえ、貧(ひん)しさは盗(ぬす)びのようになたに來(き)り、乏(ひん)しさは、つわものようにあなたに來(き)る”(箴言(しる)6:6-11)しました。聖徒(せいと)は勤勉(きんべん)で事(こと)毎(ごと)に最善(さいぜん)を尽(つ)くす生活(せいかつ)をしなければなりません。

第(だい)三(さん)に、心配(しんぱい)しないでとしました。すべての懸念(けんねん)が全部(ぜんぶ)良(よ)いわけではありません。心配(しんぱい)を大(おお)きく二(ふた)つに分(わ)けるなら神(かみ)様(さま)の意(い)のままにする懸念(けんねん)や世間(せけん)の心配(しんぱい)があります。神(かみ)様(さま)の意(い)のままにする心配(しんぱい)という敬虔(けいけん)に暮(く)らすための憂慮(ゆうりょ)事項(じこう)であり、注意(ちゅうい)仕事(じごと)のための懸念(けんねん)で魂(たましい)を救援(きゆうえん)するための心配(しんぱい)です。このような心配(しんぱい)には神(かみ)様(さま)が一緒(いっしょ)になら彼(かれ)によって得(え)ることになる上級(じょうきゅう)と光榮(こうえい)と喜(よろこ)びが適用(てきよう)されることがあります。神(かみ)様(さま)が心配(しんぱい)しないでとしたのは世(よ)事(こと)による懸念(けんねん)を指(さ)しているのです。今度(こんど)の明日(あした)への思慮(しりょ)深(ふか)い準備(じゅんび)と対策(たいさく)は必要(ひつよう)です。しかし、最善(さいぜん)を尽(つ)くした後(あと)に力(ちから)が及(およ)ばない部分(ぶぶん)は心配(しんぱい)しないで神(かみ)様(さま)

(さま)に預(あず)けなければなりません。どんなことが私(わたし)たちに迫(せま)っても、私(わたし)たちは心配(しんぱい)なしに充分(じゅうぶん)にそれと対決(たいけつ)できるように神(かみ)様(さま)が手(て)伝(でん)ってくれます。父(ちち)の神(かみ)様(さま)が私(わたし)たちのために御(ご)子(こ)を送(おく)ったし、御(ご)子(こ)イエス様(さま)が我(われ)々(われわれ)の罪(つみ)を贖(しよく)罪(ざい)をしようとして十字(じゅうじ)架(か)を背負(せお)いられました。だから空中(くうちゅう)に私(わたし)は鳥(とり)と野草(やそう)も面倒(めんどう)を見(み)ている神(かみ)様(さま)が彼(かれ)の子(こ)供(ども)の面倒(めんどう)を見(み)ていないはずは絶対(ぜったい)にします。

第(だい)四(よん)に、すべての仕事(じごと)に順位(じゅんい)を決(き)めとしました。まず、彼(かれ)の国(くに)と彼(かれ)の義(ぎ)を求(もと)めてほしいとおっしゃいました。すべての事(こと)に神(かみ)様(さま)まず、神(かみ)様(さま)第(だい)一(いち)、神(かみ)様(さま)中心(ちゅうしん)に行(おこな)わなければなりません。永遠(えいえん)な神(かみ)様(さま)の国(くに)に入(はい)ることになる聖徒(せいと)らは自分(じぶん)の心(こころ)の中(なか)に神(かみ)様(さま)の国(くに)を取(と)り組(く)むようにする必要(ひつよう)があります。'神(かみ)の義(ぎ)'は人(ひと)の努力(どりょく)と行(こう)いと成(な)すことができることはありません。、イエス・キリストを信(しん)じて頼(たよ)る者(しゃ)にくれる神(かみ)様(さま)の義(ぎ)です。まず、彼(かれ)の国(くに)と彼(かれ)の義(ぎ)を求(もと)める人(ひと)は神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)に従(じゆ)順(じゆん)にその話(はなし)を信(しん)頼(らい)するを優先(ゆうせん)と考(かん)がええます。そうすればこのすべてを加(くわ)えて言(い)いました。

イエスさまが本文(ほんぶん)に言(い)った言葉(ことば)では聖徒(せいと)皆(みんな)様(さま)の生活(せいかつ)方式(ほうしき)ということを人(ひと)びとに証明(しょうめい)して見(み)せて生活(せいかつ)することを望(ぞ)みます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム中」

あなたがたの信仰がどこにあるのか？



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス様がガリラヤ湖畔で人々にさまざまな比喻で真理を教えました。いつのまにか日が暮れていました。イエス様が説教を終えて弟子たちとともに舟に乗り込みました。弟子たちに湖の向こうで渡ろうとおっしゃいました。ガリラヤ湖の波は非常に穏かでした。イエス様は一日中人々を教えたから疲れて眠りに入りました。弟子たちは手まめに櫂を漕いだし、穏かで静かな湖の上をすべるように進みました。あの時急に狂風が湖で吹き始めました。荒々しい波が舟を飲みそうなので弟子たちは力をつくして櫂を漕いだが事態はますます悪くなって行きました。いよいよ舟に水が一杯になって沈没の危機に至るようになりました。やっと弟子たちがイエス様位に進んで、「主よ、主よ、私たちが死ぬようになりました。」しながら眠るイエス様を覚ました。イエス様が覚めて起きて荒々しい風と湖をしかって「穏かだから、静かだから」なさらしたら風と舟が穏かになりました。イエス様は弟子たちを向けて「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」しました。今日はこの事件記録を通じて聖霊がくださる教訓を得ようとしています。

第一は、イエス様を仕えて生きて行く聖徒たちの生にも試験と患難があるという教訓です。

人生は広い海を舟で航海することに比喻されています。このような人生に押しかける風波はその種類が非常に多様です。試験、患難、誘惑、逼迫の風波があります。試験と患難が免除された人はいないです。聖徒たちも例外ではないです。信仰生活をよくしている途中試験と患難に会えば「私が神様を熱心に仕えているのにどうしてこんな難しさが迫って来るのか？」という考えに捕らわれて右往左往する聖徒があります。その返事は単純です。イエス様がおっしゃるのを「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネによる福音書 16:33) しました。試験と患難を勝ったイエス様が神様を信じて頼る者に試験と患難を勝つように手伝ってくれます。

ペテロの第一の手紙 4章 12節に「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試験を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、」と言いました。そして 16節には「しかし、クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない。かえって、この名によって神をあげなさい。」しました。皆さんが苦難にあう時憶える二つが明示されています。一つは、不思議に思わないと言うのです。また一つは、恥ずかしがらないと言うのです。イエス様の弟子たちは湖の向こうで渡ろうとなされたイエス様のお話に従順して出航するうちに荒い風波に会いました。

彼らはイエス様に近付いてイエス様を覚まして彼らが直面した都合を申し上げながら助けを要請しました。聖徒たちの生にも逆境と試験があります。試験と患難があります。しかしイエス様が私たちと一緒にいらっしやいます。イエス様に訴えて助けを要請すれば聞いて災い転じて幸せになるようにして合力して善を成すようにします。

二番目は、「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」という質問に含まれている教訓です。

イエス様が風波を制圧して湖を静かになされた後これを奇異と驚くべきに眺める弟子たちを向けて「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」という質問をしました。この質問を単純に当時の弟子たちに局限させないで、すべての人々を向けた質問になるようにしたらこの質問には多くの種類の質問が重なっています。

「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」という質問には「あなたがたが何を信じているのか？」という質問が含まれています。「各人が信じる対象は重要ではない。重要なことは信仰を持ったというのだ。」と言う人々がまたあります。このような主張は聖書の言葉に配置されます。信仰の対象は決定的に重大です。それは救いと滅亡、永生と永滅、天国と地獄に係るからです。滅亡しないで永生を得て、地獄に行った足を振り返って天国に向けるようになろうとすれば神様のイエスキリストで私たちの罪をあがなわれたイエス様を信じなければなりません。イエス様のみを救世主に信じなければなりません。

「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」という質問には「あなたがたの信仰がどこに根拠しているのか？」という質問も含まれています。この質問に対する答を四種類で分けてよく見ます。

1、私たちの信仰を神様の愛に置かなければなりません。

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。」

(ヨハネの第一の手紙 4:9)。このような愛はエデンから例示されました。アダムとエバは神様が食べないと命じた善悪を知る木の実を食べてから犯罪者になりました。神様がアダムとエバのために革の衣を作って着せられました。アダムとエバとは彼らのために獣が血を流れてたまらなくなったことを通じてあがないの恩寵に対する福音を接するようになりました。彼らはこの贖いの福音を息子たちに教えてくれました。そしてアベルは羊の初子とその油で神様に祭祀差し上げたし神様がそのお供えを受けました。神様があがないの真理を多くの世代を通じて色々模様で知らせました。予言者たちを立てて彼らに啓示なさって記録するようにしました。神様の決めた時になって神様が私たちの罪をあがないする主を行かせました。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書 3:16)と言いました。神様の愛は永遠です。変わりません。差別がないです。ふんだんです。切ることができないです。使徒パウロはイエス様のうちに現われた神様の愛に根拠して胆大に打ち明けました。「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。」(ローマ人への手紙 8:32)。

2、私たちの信仰をイエスキリストの恵みに置かなければなりません。

イエス様が私たちの罪をあがないして私たちが義人になるようにしようと十字架に釘つけられて死で葬られたまた死亡権勢を勝って復活しました。ローマ人への手紙 4章 25節に記録されるのを「主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。」言いました。そして誰でもイエス様を救世主で信じて迎接すれば罪の赦しを受けて義のあるとすることを着るようになりました。これがイエスキリストの恵みです。「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。」(ローマ人への手紙 3:23,24) しました。だから福音を恵み福音だと呼びます。

3、私たちの信仰を聖霊の交通なさに置かなければなりません。

聖三位一体である神様は今聖霊でわれらのそばにいらっしやってまたうちにいらっしやいます。イエス様を信じる人にこのような事があるようになることをイエス様がこんなにおっしゃいました。「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」(ヨハネによる福音書 14:16,17)。

聖霊は聖徒たちを教えて、導いて、助けて、慰めて権能をください。こんな事を行う聖霊様の交通なさに信仰を置く非常に肯定的な考え方を行うようになります。「わたしを強くして下さいかたによって、何事でもすることができるようになります。」(ピリピ人への手紙 4:13)と言うようになります。

4、私たちの信仰を神様が言い付けて約束したみ言葉に置かなければなりません。

イエス様の弟子たちは「湖の向こうに渡ろう。」というイエス様のお話に従順して舟に乗って行っています。イエス様のお話は信実して権能があります。それなら出航するのに狂風が吹き大きい波が起きると言っても恐ろしがるとか気づかうまでもないです。ところで弟子たちは彼らが直面した現実状況に心が支配されました。すると不安恐怖が彼らの心をいっぱい満たしました。弟子たちの緊急な叫ぶによって眠りで覚めたイエス様は荒々しい風と波を叱りました。すると舟を飲むようにおびたしい勢いで押しかけた狂風と波が直ちに静かになりました。イエス様は神様です。天地万物を創造した神様は彼が作った風と波を任意どおり主観なさることが出来ます。

聖徒 皆さんはいつも神様の愛とイエスキリスト恵みと聖霊の交通なさに信仰を置いてまた聖書の言葉に信仰を置いてください。人は誰もみんな信仰を持っています。ところでその信仰の対象が何でその信仰をどこに根拠するようにするのかにしたがって彼の経験する世界が決まります。次の言葉に同意する方はアーメンで肯定的に回答してください。1. 私の信仰の窮極的对象はイエスキリストです。2. 私は神様の愛とイエスキリストの恵みと聖霊の交通なさと聖書に信仰の根拠を置いています。「あなたがたの信仰がどこにあるのか？」というイエス様の質問に対して立派な返事をなさった皆さんは真実で幸いがあります。